

有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築

〔事業責任者〕

（自治体等側）所属機関名・職名

茨城県農林水産部農業技術課・課長・鈴木亮治

（大学側）所属機関名・職名

茨城大学農学部・教授・小松崎将一

連携先

茨城県

プロジェクト参加者

小松崎将一（茨城大学農学部、教授、とりまとめ）

木村仁（茨城県農林水産部農業技術課、技佐、公開シンポジウム支援）

荒井崇（茨城県農林水産部農業技術課、主任、公開シンポジウム支援）

プロジェクトの実施概要

① 有機農業を取り巻く状況

農林水産省は、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」（以下、「みどり戦略」）を策定し、2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積を100万haまで拡大する目標を掲げた。また、令和2年4月に同省が定めた「有機農業の推進に関する基本的な方針」の中では、有機JAS認証の取得については、農業者の判断によることを前提としつつ、取引先のニーズ等を踏まえ、必要に応じ有機JAS認証を容易に取得できる環境づくりに努める、としている。

茨城県では、令和5年5月に策定した「茨城農業の将来ビジョン」において、収益性の高い農業構造への転換に向けた分野横断的な政策の1つとして、有機農業による県産農産物の差別化を掲げている。

② プロジェクトの目的

農林水産省は「みどり戦略」を掲げ、SDGsに合わせた有機農産物生産の推進を目指している。この中で、2050年までに耕地面積に占

める有機農業の割合を0.5%から25%（100万ha）に増やすという目標を設定し、化学農業の使用量（リスク換算）を50%低減することも掲げている。このために、茨城大学と茨城県が連携し、有機農業の現状と将来像を共有し、協働するプラットフォームを作り上げる。

今年度は、普及指導員を含めた農業関係者向けに公開シンポジウムを行い、県内の有機農業の指導体制強化等を支援する。また、研修内容を学外にも積極的に公開することで、市町村の有機農業担当者、県内の流通販売担当者、消費者等の持続可能な地域農業に対する理解を促し、新しい地域農業の普及拡大の機運を高める。

③ 連携の方法及び具体的な活動計画

茨城県は、有機農業推進法に基づき、平成20年度に茨城県有機農業推進計画を策定した。現在、当該計画は第3期を迎えており、これまで、茨城大学や有機農業を実践する団体と連携して、有機農業技術を体系化し、普及させてきた。特に、有機農家を中心に技術交流等を行うプラットフォームである「いばらき有機農業技術研究会」では、茨城大学や茨城県が連携して必要なサポート等を行っている。

これらの連携を踏まえて、本プロジェクトでは、茨城大学の研究成果や人材育成機能を活用し、茨城県における有機農業の取組の一層の拡大と、「みどり戦略」の推進に貢献する。

茨城大学は、研究機関、有機農業者あるいはJA等の地域農業団体などを講師として迎え、対面またはオンラインで公開シンポジウムを実施する。

茨城県は、職員を本プロジェクトで実施するシンポジウムに派遣する。これにより、有機農業に関する知見と指導スキルの獲得を図り、有機農業に関する指導体制の強化を目指す。

③期待される成果

普及指導員をはじめ、市町村職員、農業者、消費者等に向けて、本県の有機農業に関する政策や今までの取組成果（生産技術等）、有機農家の事例報告等を行うことで、有機農業への取組推進を加速化する。

また、取組を広く公開することで、生産現場（地域）と大学の研究を結び付け、産学官が一体化した動きを作り上げる。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

有機農業推進の機運を高め、普及指導員等のスキルアップを図るため、公開シンポジウムを以下のとおり実施した。

公開シンポジウム

「未来への種まき：茨城の有機農業の躍進へ向けて！」

○ ねらい

地球の気候変動と地域の環境保全への対応において、有機農業の役割が重要である。茨城の農業は有機農業においても先進的であり、令和4年度には、JA やさと有機栽培部会が「第52日本農業賞」集団組織の部大賞を受賞したところ。また、茨城県では、いばらきオーガニックステップアップ事業等を通じて有機農業の振興に積極的に取り組んでいる。本シンポジウムでは、注目度の高い通販サイト「食べチョク」を運営する株式会社ビビッドガーデンの秋元里奈氏を講師に迎え、茨城県の有機農業の展開と将来に焦点を当て意見交換を実施する。多様な関係者の参加・議論により、有機農業の重要性和未来の可能性につ

いて理解醸成を図る契機とする。

○ 日 時

2023年12月3日（日） 13:30 ～ 16:30

○ 会 場

茨城大学水戸キャンパス図書館ライブラリーホール／オンライン

○ 共 催

いばらき有機農業技術研究会

○ 後 援

茨城県農業協同組合中央会、常陸農業協同組合、水戸農業協同組合、やさと農業協同組合、水戸市、石岡市、笠間市、常陸大宮市、茨城県、茨城大学農学部

○ 概 要

開会挨拶：

松岡尚孝（いばらき有機農業技術研究会会長）

来賓挨拶：

八木岡努（茨城県農業協同組合中央会会長）

趣旨説明：

小松崎将一（茨城大学）

【記念講演】

（株）ビビッドガーデン（食べチョク）代表取締役社長 秋元里奈

「食べチョクから考える持続可能な一次産業」

【パネルディスカッション：茨城の有機農業の躍進へ向けて】

進行：小松崎将一/ 松岡尚孝

「やさとの農業と産直の取り組み そして自給を考える」JA やさと専務理事 廣澤和善

「JA 常陸での有機農業の取り組み」JA 常陸代表理事組合長 秋山豊

「茨城県における有機農業推進の取組」茨城

令和5年度地域研究・地域連携プロジェクト報告書

県農林水産部農業技術課長 鈴木亮治

「消費者から有機農業を考える」いばらきコープ生活協同組合 組合員理事 八百川典子
「茨城県の有機農業の躍進に向けて（生産者の立場から）」(株)ふしちゃん代表取締役 伏田直弘

研究発表（ポスター発表）：茨城大学における有機農業研究について（5件）

閉会挨拶：

宮口右二（茨城大学農学部長）

茨城大学地域研究・地域連携プロジェクト
「有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築」公開シンポジウム

未来への種まき：茨城の有機農業の躍進へ向けて！

日時：2023年12月3日（日）13：30～16：30
場所：茨城大学図書館3階多目的ホール及びオンライン開催
参加費：無料（事前申し込み11月29日まで）

概要：地球の気候変動と地域の環境保全への対応において、有機農業の役割が重要です。茨城の農業は有機農業においても先進的であり、この春、JAやさと有機栽培部会は「第52回日本農業賞」集約組織の部大賞を受賞しました。また、茨城県では、いばらきオーガニクスステップアップ事業を通じて有機農業の振興に積極的に取り組んでいます。このシンポジウムでは、人気急上昇の通販サイト「食べチョク」を運営されている秋元氏のご講演を聞き、茨城県の有機農業の現状と将来に焦点を当てて意見交換を行います。皆様のご参加により、有機農業の重要性と未来の可能性について考える場となることを願っています。

開会挨拶：松岡 尚幸（いばらき有機農業技術研究会 会長）
来賓挨拶：八木岡 善（茨城県農業協同組合中央会 会長）

記念講演
(株) ビビッドガーデン（食べチョク）代表取締役社長 秋元 里奈
いばらき有機農業への期待！
一食べチョクの取り組みを踏まえてー

パネルディスカッション：茨城の有機農業の躍進へ向けて

進行：小松崎 将一 松岡 尚幸
・JAやさと有機栽培部会の取り組み JAやさと 専務理事 廣澤 和香
・JA常陸での有機農業の取り組み JA常陸 代表理事組合長 秋山 豊
・茨城県における有機農業推進の取り組み 茨城県 農林水産部
・消費者から有機農業を考える いばらきコープ生活協同組合 理事 八百川 典子
・生産者の立場から (株)ふしちゃん 代表取締役 伏田 直弘

研究発表（ポスター発表）：茨城大学における有機農業研究について

閉会挨拶：宮口 右二（茨城大学農学部長）

参加申し込みは右上の二次元バーコードまたはメール
(organic.ibaraki.tech@gmail.com) からお願いいたします。
会場の都合上、対面参加は先着70名とさせていただきます。
参加申し込み・問い合わせ先
いばらき有機農業技術研究会
茨城大学農学部
附属国際フィールド農学センター
〒300-0993
茨城県石岡市秋田3-2-1
電話/FAX 029-868-8707
organic.ibaraki.tech@gmail.com

主催：茨城大学農学部小松崎研究室 共催：いばらき有機農業技術研究会
後援：茨城県農業協同組合中央会、常陸農業協同組合、水戸農業協同組合、やさと農業協同組合
水戸市、石岡市、笠間市、常陸大宮市、茨城県、茨城大学農学部

パネルディスカッションでは、パネリストが各々の立場から現状や課題、今後の期待等を発言し、会場も交えて質疑応答や議論を行った。

JA やさとからは、生協との産直取引をきっかけとした有機農業の取組（継続的に担い手を育成する新規就農者研修制度や高位平準化された有機野菜を生産する組織体制等）、環境調和型・地域資源循環型農業の重要性等が報告された。

JA 常陸からは、JA 常陸アグリサポートのケースを中心に、わずか5年で有機モデル団地の形成に至った経緯や、関係機関との連携の必要性、今後の拡大に向けた展望と課題等が報告された。

県農業技術課からは、有機農業に係る県のスタンスやこれまでの有機農業推進施策の紹介、茨城県の有機農業の現況や課題、今後の対応方針等が報告された。

いばらきコープ生活協同組合からは、いばらきコープの取組や商品政策、組合員の意識調査の結果等、消費者の立場から見た有機農業への期待や消費者自身の学びの重要性が報告された。

株式会社ふしちゃんからは、高付加価値化の手段としての有機農業の可能性と自身の経営方針、実際の栽培方法・農場管理体制、販路確保の取組や今後の経営ビジョン等が報告された。

これらの報告を踏まえてディスカッションを実施し、これからの茨城の有機農業の推進のためには、有機農業の持つ2つのメリット（環境負荷軽減と高付加価値）を活かし、環境・経営の両面で持続可能な農業を実践するとともに、消費者理解を深める必要性があることを確認した。

本プロジェクトでは、「みどり戦略」の公表を踏まえ、よりよい茨城県の有機農業の展開について議論を重ねてきた。ここでは、いままで茨城県の有機農業をリードしてきた、地域に根差した取組を大切に生かしつつ、新規

② プロジェクトの達成状況

記念講演では、有機農産物の販路確保につながるポイントとして、最近の消費者動向に関する情報提供があった。消費者は「こだわりの農産物」と「生産者とのつながり」を求めており、これらを感じられれば高単価でも購入する傾向がある。コロナ禍以降、ECでの農産物販売市場は急速に高まっており、EC上で「つながり」をどう感じさせるかが重要であるとの指摘があった。

就農や農企業の参画などによりその生産力を拡大することで、有機農業のもつ公共的機能・持続可能性を高めながら普及拡大していく方向性めざすことを確認できた。参加者は139（オンライン参加を含む）名であった。

③ 今後の計画と課題

茨城県の有機農業の取組について、スケールの大小および市場との連携の多様性を意識しながら、地域の持続性が真に向上する有機農業の地域展開の方向性の議論を深め、大学と県行政との連携を深めていきたい。